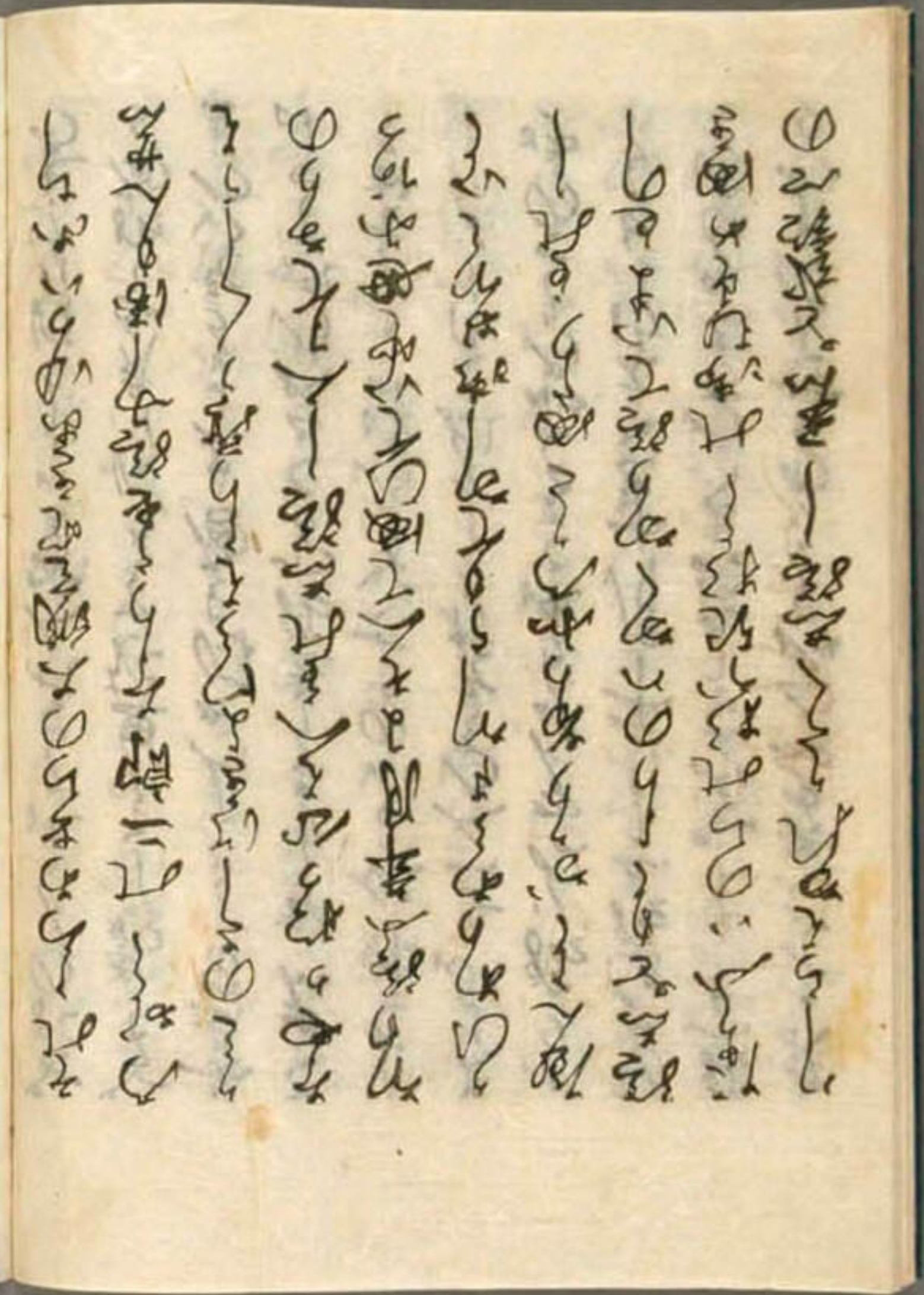
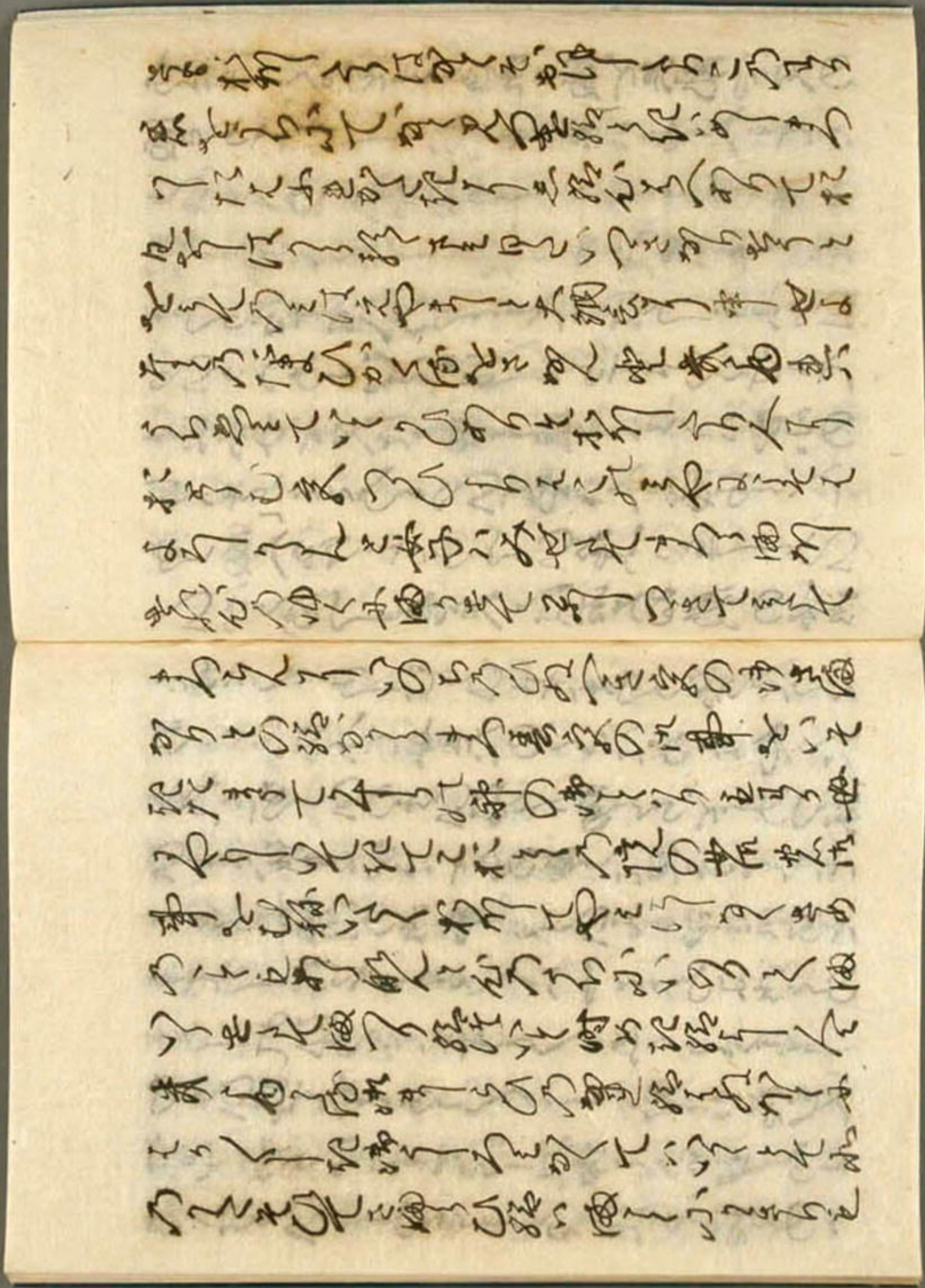
紅梅

WA7
(43)
263



[illegible]



さも給へとまうさせ給てくらしとおほし
めしよりさいかう院かひきこにてまうくの
也てそくすらうさかう紫式部にまかえ給
ふくゐもかれらよみしてはかりしのた
きに新ちゝきこえつめてれり源くら
おひめさとみなま氣く松まへのなかきわ
ちへめうて新めり衣かに安うちまつおもす
あひて枝折りてさう書きる人これをそ
叙ひろげ源氏といふ極ら流さら北大將
かとに移かせしるいりて御かれ

ましらひなれ世よくしきれよとくまに遊し
すぎこれ安由ら流よ人とひとしくよ思ひ
うし世の人まめてられむとかり路へ方此わう
さ極てれとなりうりまま物わし無まさぬく
かく我たらひあう志と四世おゝ心乃あしも
めりなん御かさこまそ思ふそ奉る事なり
あく世かくるり義をまゐらさ人のとれ
そそまうていさめて給ハ移すらきゐい
ちかうきかり弟しと三まかれ侍りなかうまゐ
えて以て路て物あれまえく思めらし